

都の巽宇治の里は茶の名産にして、高貴の調進年毎の例ありて製法作境にならびなし。山吹ちり卯の花咲そむる頃、茶摘とて此里のしづの女白き手拭をいただき赤き前だれを腰に翻して、茶園に入り声おかしくひなびたる歌諷ひて興じけるありさま、陸羽が茶経には書遺し侍る。

木がくれて茶摘もきくや子規

ばせを